

歴博 ぐらしの植物苑だより

第10回 日本の植物文化を語る 10月28日(土) 13:30～ 本館講堂

『栗の文化・漆の文化—アジアの中の縄文文化』首都大学東京 山田昌久

第94回 ぐらしの植物苑観察会 11月25日(土) 13:30～ ぐらしの植物苑

『針葉樹のはなし』千葉県立中央博物館 齋木健一 苑内案内

ぐらしの植物苑今週の見どころ <http://rekihaku.ac.jp> 毎週更新

【予告】伝統の古典菊

10月24日(火)～11月26日(日)

菊は日本古来の伝統的な園芸植物と考えられがちですが、中国を原産地としており、日本には古くから何度も持ち込まれたと考えられています。

日本独自の育成は平安時代から鎌倉時代にさかのぼると考えられています。今回展示する嵯峨菊と伊勢菊は古い伝統を受け継ぐものとして知られています。江戸時代には肥後菊・江戸菊が育成されるようになります。これら古典菊、約80品種を5号、7号鉢に仕立て、古典菊の世界を御覧ください。



10月28日(土) 10:00～12:00 苑内休憩

キク苗の有償頒布を行います。(1000円・2000円) 売り切れ際はご容赦願います。



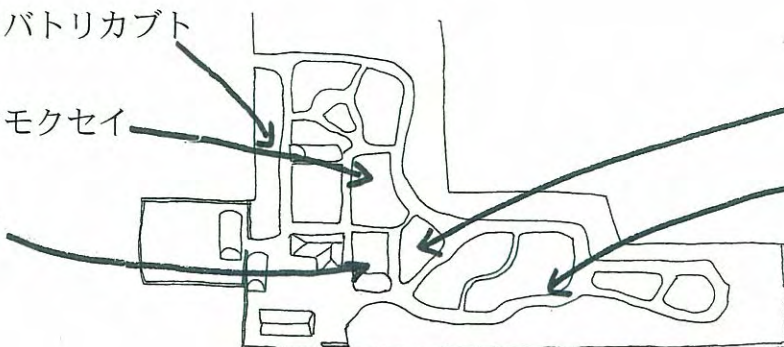
嵯峨菊：

古来は七五三作りという、独特の仕立て方で観賞します。花弁が細く直立するのが大きな特徴です。

ツクバトリカブト

キンモクセイ

チャ



マコモ

シャクチリソバ



チャ (ツバキ科ツバキ属)

私達が日常お茶として飲んでいるなかで、低木で葉が小さく先の丸い緑茶製造にむいている中国種と、高木で葉が大きく先の尖っている紅茶製造にむいているアッサム種があります。チャは他家受粉の植物なので、栽培には挿し木による繁殖が行なわれています。

ツクバトリカブト(キンポウゲ科トリカブト属)

トリカブト属は林床や草原に生える多年草で、左右対称の花で、2枚の下萼片、2枚の側萼片、1枚の頂萼片があります。頂萼片がカブト状になります。この属は変異がおおきいです。根は漢名で鳥頭(うず), または附子(ぶす, ぶし)といい、重要な薬用植物の1つです。



シャクチリソバ (タデ科ソバ属)

ヒマラヤから中国に分布する多年草。現地では種子は食用にされるが、日本では作物として栽培されてはいません。苑のシャクチリソバも花は咲きますが種子をつけたことがありません。



キンモクセイ (モクセイ科モクセイ属)

花よりも先に、香りでキンモクセイの木があることに気が付くくらい香りのある木です。雌雄異株で、日本には雄株しか入っていません。花冠は深く4裂し、2本のおしべがあります。モクセイの品種で花色により、白(ギンモクセイ), 橙黄(キンモクセイ), 淡黄色(ウスギモクセイ)と分けています。



マコモ (イネ科マコモ属)

北米のワイルドライスと呼ばれるものとおなじ仲間です。池や沼に生える大形の多年草です。1本の枝の上部に雄小穂、その下に雌小穂をつけます。中国では黒穂病によって肥大した若芽を食用にし、古くは日本でも黒穂の黒粉をまゆずみに用いました。

